

SANSAMPTM
BASS DRIVER DI
TECH 21・NYC.

取扱説明書



株式会社 サウンドハウス

〒286-0044 千葉県成田市不動ヶ岡1958

TEL:0476(22)9333 FAX:0476(22)9334

<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

はじめに

この度は TECH 21 SANSAMP をお買い上げいただき誠にありがとうございます。製品の性能を十分に発揮させ、末永くお使いいただく為、ご使用になる前にこの取扱説明書を必ずお読みください。なお、本書が保証書となりますのでお読みになった後は大切に保管してください。

APPLICATIONS

ベースアンプと組み合わせ

ストンプ・ボックスとして:フォン端子の出力からアンプの入力端子に接続します。アンプ入力をオーバーロードさせ不用意ディストーションを発生させないように、SansAmp Bass Driver DI のレベルをユニティー・ゲインと近い数値で使用してください。

プリ・アンプとして:フォン端子を SansAmp Bass Driver DI のフォン出力からパワーアンプ入力(エフェクト・リターン入力)に接続してください。この設定で使用することでベースアンプの音造りプリアンプ回路をバイパスします。

パワーアンプとの組み合わせ

フォン出力端子からアンプの入力端子に接続し、ステージ・ボリュームを SansAmp Bass Driver DI で調整できます。

(注意) 必要に応じボリュームを思いっきり上げることも可能です。

ダイレクト・レコーディングをするには

XLR またはフォン出力から直接ミキサー/レコーダーに入力してください。ミキサー/レコーダーの入力トリム・コントロールで入力信号のオーバーロードを防いでください。フル・レンジのシステムは幅広い周波数帯を持っているので、EQ レベルを 0 (12 時) の設定から始め、そこから音を調整していくことをお勧めします。

コントロールの説明

PRESNECE:高域のハーモニックスとアタックを引き出します。滑らかな高音、クリーンな音を出すには数値を好みに下げてください。

DRIVE:全体のゲイン/オーバードライブを調整します。チューブ・アンプの出力をオーバードライブさせている (push している) 時と同じです。

BASS&TREBLE:カットしか出来ないパッシブ・コントロールとは違い、このアクティブ・トーン・コントロールを使って ±12dB カット/ブーストが出来ます (ユニティー・ゲインは 12 時の位置です)。このパワフルな EQ セクションは固定のミッド・コントロールの必要性を実質的になくし、ミッド・カット/ブースト等の幅広いトーンの曲線を描くことが出来ます。

ミッドレンジの調整:SansAmp Bass Driver DI のミッド・レンジ・レベルはプリセットされています。

ミッド・カット:ベースとトレブルを上げることによってミッドのカットが行えます。

ミッド・ブース:逆にベースとトレブルを下げることによってミッド・ブースが行えます。

(注意) 全体の出力レベルは EQ コントロールのレベルによって異なりますので LEVEL コントロールを使って調整してください。

BLEND:入力されている楽器の信号を SansAmp チューブ・アンプ・エミュレーション回路にどれほど送れるかを調節するコントローラです。ほとんどの場合このコントロールは最大に設定されているのででしょう。透明感溢れる音が必要な時、またはピエゾ・ピックアップを使用しているときには BLEND の数値を下げることをお勧めします。

BLEND が最小設定の時、SansAmp チューブ・アンプ・エミュレーション回路はバイパスされますが BASS, TREBLE と LEVEL コントロールはアクティブです。

LEVEL:全体の出力レベルを調整します。

入力端子

スピーカー等にダメージを与えないよう、音響の基本ルールを守りましょう。

配線を繋げたり、外したりする時には、ミキサーとアンプのボリュームを下げてください。

INPUT: フォン端子、1メガオーム、楽器 (instrument) レベル。電池のスイッチを入/切します。長時間使用されない場合は、配線をはずしてください。その際ミュートを忘れないでください。

PARALLEL OUTPUT: フォン・アンバランス・ダイレクト出力は入力端子直結しています。入力信号は影響を受けずに直接出力されます。

フットスイッチ (入/切表示 LED ライト付) : SansAmp チューブ・アンプ・エミュレーション回路の入/切を操作。

ON: LED が点灯、トーンもゲインも SansAmp Bass Driver DI コントロールの数値通りに信号がフォン出力と XLR 出力から送られます。

OFF: LED が消灯、SansAmp Bass Driver DI は透明のダイレクト・ボックスとして入力された信号は音質を変えずに送られます。

バランス XLR 出力 : バランス・ローZ 出力です。ミキサー/レコーダーにフットスイッチで選択されている信号を送ります。

フォン出力 : アンバランス・ローZ 出力。アンプにフットスイッチで選択されている信号を送ります。

PHANTOM&GROUND CONNECT SWITCH:

“PHANTOM&GROUND CONNECT” を選択されるとグラウンドが接続され XLR 出力がファンと無電源を受けます。

“PHANTOM&GROUND CONNECT” を選択しない場合は、電源をミキサーから受けず、電池からの電源で動作します。

ファントム・パワーを装備しているミキサーであれば、XLM ケーブルを使い信号をミキサーに送りながら同じケーブルでミキサーから電源を受けることが出来ます。詳しい説明はミキサーの説明書をお読みください。

(注意) ファントム・パワーを使用している時にミキサーから電源が突然切れてしまうと、スピーカーにダメージを与えてしまう可能性があるため、ファントム・パワーを使用する際も電池を SansAmp Bass Driver DI に装備しておいてください。

スピーカー・シミュレーション

スピーカー・シミュレーションは SansAmp チューブ・アンプ・エミュレーション回路の大きな特徴です。本数のマイクでキャビネットをマイキングするような滑らかで、統一感のある音を作り上げます。どんなベース・キャビネット・スピーカー・システムとも相性が良いでしょう。

メモ/ノート

1. SansAmp Bass Driver DI はインターアクティブなツールだ！

同じ設定でも入力信号のレベルによって反応が変わります。PRESENCE, DRIVE, EQ を使って貴方の望んでいた音を探すことが出来るでしょう。音質をクリーンで滑らかな音に仕上げたいのであれば、Treble を上げ、Presence を下げることをおすすめします。

もっとオーバードライブを効かせた音を望んでいるならば、反対に Treble を下げ、Presence を上げると良いでしょう。この設定で高域のハーモニクスとアタックを引き出せるでしょう。

2. SansAmp Bass Driver DI のノイズ・レベルは大変低いです。しかし、楽器などが拾い上げるノイズを拡大してしまうこともあります。SansAmp Bass Driver DI のコントロールは驚くほど敏感なので高入力でもなく、高出力を得ることが可能です。SansAmp Bass Driver DI に接続している時のノイズを最大限に押さえるため次の設定をお勧めします。

A) アクティブ (electronic) 楽器：トーン設定を±0 の状態にしてください。(ブーストが必要な場合は少しずつ上げていってください。)

B) パッシブ (electronic) 楽器：ボリューム、トーン共に最大値まで上げてください。

3. SansAmp Bass Driver DI を最大限のレベルまで上げるとチューブ・アンプのオーバードライブと同じようにハーモニックスを引き出すことが出来ます。設定によっては、ベースドライバーやユニークな回路がピーク数値を制限してくれますので外部のコンプレッサーやリミッターを使わなくても一定のレベルを保ってくれる事があります。
4. エフェクターを使用する際:SansAmp Bass Driver DI の大きな特徴は1人1人の演奏(playing style)によって異なるニアンスな等によって作り出される音が変わることです。エフェクトを SansAmp Bass Driver DI の前に接続してしまうと、この特徴を最大に活かすことが出来なくなります。どうしても前に接続する必要がある場合はエフェクターからの出力レベルを楽器からの出力レベルと同等にするよう心がけてください。

保証書

保証書

ご使用中に万一故障した場合、本保証書に記載された保証規定により無償修理申し上げます。

お買い上げ日より1年間有効

■保証規定

保証期間内(ご購入より1年間)において、取扱説明書・本体ラベルなどの注意書に基づき正常な使用方法で万一発生した故障については、無料で修理致します。保証期間内かどうかは、サウンドハウスからのご購入履歴により確認を行います。

但し、保証期間内でも、下記のいずれかに該当する場合は、本保証規定の対象外として、有償の修理と致します。

1. お取扱方法が不適当(例:過大入力によるウーハー焼けなどの故障等)なために生じた故障の場合
2. サウンドハウス及びサウンドハウス指定のメーカーや代理店が提供するサービス店以外で修理された場合
3. 製品に対して何らかの改造が加えられた場合
4. 天災(火災、塩害、ガス害、地震、落雷、及び風水害等)による故障及び損傷の場合
5. 製品に何らかの理由で異物が付着、もしくは流入したことによる故障及び損傷とみなされた場合
6. 落下など、外部から衝撃を受けたことにより故障及び損傷がおきたとみなされた場合
7. 異常電圧や指定外仕様の電源を使用したことによる故障及び損傷とみなされた場合(例:発電機などの使用による異常電圧変動)
8. 消耗部品(電池、電球、ヒューズ、真空管、ベルト各種パーツ等)の交換が必要な場合
9. 通常のメンテナンスが必要とみなされた場合(例:スモークマシン等の目詰まり、内部清掃、ケーブル交換等)
10. お客様自身で行った調整や修理作業が原因で生じた破損事故や故障
11. その他、メーカーの判断により保証外とみなされた場合

●運送費用

通常、修理品の持込等に要する費用は全てお客様のご負担となります。但し、事前に確認のとれた初期不良ならびに保証範囲内での修理の場合は、佐川急便に限り着払いを受け付けます(下記RA番号が必要です)。沖縄などの離島の場合は、着払いでの受付は行っておりません。送料はお客様のご負担にて、どこの運送会社からでも結構ですので発送願います。

●RA番号(返品承認番号)

初期不良または保証内の修理における着払いでの運送については、サポート担当より通知されるRA番号が必要です。ご返送される場合は、必ずRA番号を送り状シールに明記してください。RA番号が無いものについては、佐川急便以外の運送会社での着払いは一切お受けできませんのでご了承ください(お客様のご負担の場合はどの便でも結構です)。

●注意事項

サウンドハウス保証は日本国内のみに有効です。また、いかなる場合においても商品の仕様、及び故障から生じる損害(周辺機器の損害、事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、又はその他の金銭的損害)に関してサウンドハウスは一切の責任を負いません。